

1. 評価結果概要表

作成日 平成 21年 3月 27 日

【評価実施概要】

事業所番号	0177600285		
法人名	株式会社 緑苑		
事業所名	グループホーム メープル		
所在地	石狩市緑苑台東3条2丁目170番地2 (電話) 0133-72-1129		
評価機関名	有限会社 ふるさとネットサービス		
所在地	札幌市中央区北1条西5丁目3 北1条ビル3階		
訪問調査日	平成21年3月24日	評価確定日	平成21年4月18日

【情報提供票より】 (21年 3月 6日事業所記入)

(1) 組織概要

開設年月日	平成16年 5月 10日		
ユニット数	2 ユニット	利用定員数計	18 人
職員数	17 人	常勤 16人、非常勤 1人、常勤換算	16.5人

(2) 建物概要

建物構造	木造	造り
	2階建ての	1～2 階部分

(3) 利用料金等(介護保険自己負担分を除く)

家賃(平均月額)	39,000 円	その他の経費(月額)	水光熱費 24,000円
			暖房費 6,000円
敷金	有()円	無	
保証金の有無 (入居一時金含む)	有()円	有りの場合 償却の有無	有 / 無
食材料費	朝食	450 円	昼食 450 円
	夕食	450 円	おやつ 円
	または1日当たり 円		

(4) 利用者の概要 (3月 6日現在)

利用者人数	18 名	男性 5 名	女性 13 名
要介護1	4 名	要介護2	2 名
要介護3	5 名	要介護4	6 名
要介護5	1 名	要支援2	0 名
年齢	平均 86.4 歳	最低 73 歳	最高 97 歳

(5) 協力医療機関

協力医療機関名	琴似ファミリークリニック、茨戸病院、高台病院、友愛病院
---------	-----------------------------

【外部評価で確認されたこの事業所の特徴】

開設以来、明確な理念の下、運営者と管理者を中心に職員と共に日々研鑽しながら着実に良質なホーム作りに取り組んでいる。特殊入浴やホーム内の造作など随所に機能低下に対応するための配慮がされている。利用者はホームの理念通り、広い敷地内でゆったりとした生活環境の中で、地域の方々や職員との心のふれあいを大切にして生活している。管理者と職員は利用者の意思を大切にし、意欲を持って暮らせるよう潜在能力を活かした取り組みを行なっている。看護師も常駐し、複数の医療機関との連携も出来ており、家族や利用者の安心に繋がっている。利用者も職員の表情も明るく本当の家族のように生活しており、自由で安心感のある暮らしを継続支援しているホームである。

【重点項目への取組状況】

重点項目①	<p>前回評価での主な改善課題とその後の取組、改善状況(関連項目:外部4)</p> <p>前回の改善課題である「地域とのつきあい」「評価の意義の理解と活用」「運営推進会議」「災害対策」については、積極的に取り組み改善されている。「同業者との交流」については再度、職員全員で話し合いネットワーク作りが実現できることを期待したい。</p> <p>今回の自己評価に対する取り組み状況(関連項目:外部4)</p> <p>今回の自己評価は、日々のケアを振り返る機会として、職員全員が項目ごとに意見を出し合い数ヵ月かかり纏め上げている。前回の改善課題にも積極的に取り組み成果を出している。</p>
	<p>運営推進会議の主な討議内容及びそれを活かした取り組み(関連項目:外部4, 5, 6)</p> <p>運営推進会議は2ヵ月に一度、家族や包括支援センター・地域住民に参加をいただき、順調に開催されている。ホームの状況報告や地域との係わり、防災等について、毎回多様な議題を議論しており、そこでの意見や要望を職員全員で話し合い、ホームのサービス向上に活かしている。議事録も整備されている。</p>
重点項目②	<p>家族の意見、苦情、不安への対応方法・運営への反映(関連項目:外部7, 8)</p> <p>家族会が開催されており、利用者や家族、職員が、気軽に意見を述べ合い、ふれあいを大切にする機会としている。また家族には推進会議にも出席依頼しており、外部に意見や苦情を表す機会を設けている。苦情相談もホームと行政の窓口を明確にしている。</p>
重点項目③	<p>日常生活における地域との連携(関連項目:外部3)</p> <p>地域の理解をいただきながら、利用者がお祭りに参加したり、地域の方々にホームに気軽に立ち寄っていただいている。また少年野球の応援や小学校の学芸会及び運動会の見学などを通して、子供たちとの交流を図っている。またホームの行事にも参加していただき、ホームと地域の交流を深めている。</p>

2. 評価結果（詳細）

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
I. 理念に基づく運営					
1. 理念と共有					
1	1	○地域密着型サービスとしての理念 地域の中でその人らしく暮らし続けることを支えていくサービスとして、事業所独自の理念をつくりあげている	ホーム全体で地域密着型サービスの意義を理解し、地域生活の継続支援とホームと地域の関係性強化を目指した理念を作りあげている。		
2	2	○理念の共有と日々の取り組み 管理者と職員は、理念を共有し、理念の実践に向けて日々取り組んでいる	ホーム内外に理念を掲げ、管理者と職員は日々確認しながら実践に向けて取り組んでいる。		
2. 地域との支えあい					
3	5	○地域とのつきあい 事業所は孤立することなく地域の一員として、自治会、老人会、行事等、地域活動に参加し、地元の人々と交流することに努めている	地域の理解をいただきながら、利用者がお祭りに参加したり、地域の方々にもホームに気軽に立ち寄っていただいている。少年野球の応援や小学校の学芸会及び運動会の見学などを通して、子供たちとの交流を図っている。またホームの行事にも参加していただき、ホームと地域の交流を深めている。		
3. 理念を実践するための制度の理解と活用					
4	7	○評価の意義の理解と活用 運営者、管理者、職員は、自己評価及び外部評価を実施する意義を理解し、評価を活かして具体的な改善に取り組んでいる	今回の自己評価は、日々のケアを振り返る機会として、職員全員で項目ごとに意見を出し合い数ヶ月かかり纏め上げている。前回の改善課題にも積極的に取り組み成果を出している。		

石狩市 グループホーム メープル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5	8	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	運営推進会議は2ヵ月に一度、家族や包括支援センター・地域住民に参加をしていただき、順調に開催されている。ホームの状況報告や地域との係わり、防災等について、毎回多様な議題を議論しており、そこでの意見や要望を職員全員で話し合い、ホームのサービス向上に活かしている。		
6	9	○市町村との連携 事業所は、市町村担当者と運営推進会議以外にも行き来する機会をつくり、市町村とともにサービスの質の向上に取り組んでいる	ホームは、行政担当者から情報をいただいたり相談しながら、常に連携を図りサービスの質の向上に向けて取り組んでいる。		
4. 理念を実践するための体制					
7	14	○家族等への報告 事業所での利用者の暮らしぶりや健康状態、金銭管理、職員の異動等について、家族等に定期的及び個々にあわせた報告をしている	毎月の「メープルたより」には、行事や生活の様子を写真に収めエピソードを交えて、発行している。また利用者一人ひとりの状況に合わせてお手紙を郵送したり、家族来訪時にも日常の生活の様子を話したりしている。金銭出納についても報告をしている。		
8	15	○運営に関する家族等意見の反映 家族等が意見、不満、苦情を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	家族会が開催されており、利用者や家族、職員が、気軽に意見を述べあい、ふれあいを大切にする機会としている。また家族には推進会議にも出席依頼しており、外部に意見や苦情を表す機会を設けている。苦情相談もホームと行政の窓口を明確にしている。		
9	18	○職員の異動等による影響への配慮 運営者は、利用者が馴染みの管理者や職員による支援を受けられるように、異動や離職を必要最小限に抑える努力をし、代わる場合は、利用者へのダメージを防ぐ配慮をしている	開設当時の職員が多く、離職は殆どないが、職員全員が利用者と馴染みの関係が出来るように、ユニット間の異動は定期的に行なわれている。利用者も自由にユニット間を行き来しており、いつも馴染みの職員がおり、利用者が安心した生活が送れるよう配慮されている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
5. 人材の育成と支援					
10	19	○職員を育てる取り組み 運営者は、管理者や職員を段階に応じて育成するための計画をたて、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	運営者は、職員の研修は不可欠と認識しており、外部研修を受ける機会を設け、職員は積極的に参加をしている。参加後はレポートを提出し研修報告書が作成されており、いつでも閲覧できるようになっている。職員は働きながらお互いの資質を高めあう努力をしている。		
11	20	○同業者との交流を通じた向上 運営者は、管理者や職員が地域の同業者と交流する機会を持ち、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	管理者は、会議に出席し、意見交換や勉強会を行なっているが、職員は、ほかのホーム職員と交流する機会がなく、ネットワークづくりまでは至っていない。	○	会議に参加した際に、ホームから提案発信するのほひとつの方法です。出来るだけほかの業者との会合に参加し、勉強会や意見交換・相互訪問などの交流を通じ、更なる質的レベルアップを期待したい。
II. 安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
1. 相談から利用に至るまでの関係づくりとその対応					
12	26	○馴染みながらのサービス利用 本人が安心して、納得した上でサービスを利用するために、サービスをいきなり開始するのではなく、職員や他の利用者、場の雰囲気徐々に馴染めるよう家族等と相談しながら工夫している	いきなりサービスを開始するのではなく、事前に利用者や家族に見学していただき、十分話し合いをして進めている。		
2. 新たな関係づくりとこれまでの関係継続への支援					
13	27	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、一緒に過ごしながら喜怒哀楽を共にし、本人から学んだり、支えあう関係を築いている	職員は利用者と同じ目線に立ち、利用者を人生の先輩や親と思い、生活を共にする中で、生活の知恵を教えていただいたりしながら過ごしており、日々の暮らしの中でお互いを分かり合い支えあう関係が築かれている。		

外部 評価	自己 評価	項 目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期 待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
1. 一人ひとりの把握					
14	33	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	職員は利用者との毎日の生活の中で、一人ひとりの思いを大切にし、自分に置き換えて考え、利用者の発する言葉や行動に関心を払い職員同士情報交換を行ない、家族からの情報もいただきながら、利用者中心の暮らしを支援している。		
2. 本人がより良く暮らし続けるための介護計画の作成と見直し					
15	36	○チームでつくる利用者本位の介護計画 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映した介護計画を作成している	利用者や家族の意見を尊重し、月例会でカンファレンスを行ない、職員の気づきを集約して介護計画を作成し、作成後はもう一度利用者や家族の意向を伺い同意をいただいている。		
16	37	○現状に即した介護計画の見直し 介護計画の期間に応じて見直しを行うとともに、見直し以前に対応できない変化が生じた場合は、本人、家族、必要な関係者と話し合い、現状に即した新たな計画を作成している	毎日、介護計画に沿ってチェックを実施している。介護度に応じ生活援助プランを作成しており、書式も見やすくその日の状態がわかるようになっている。基本的には6ヵ月毎に見直しを行なっているが、利用者の状態変化によっては、その都度見直しを行なっている。		
3. 多機能性を活かした柔軟な支援					
17	39	○事業所の多機能性を活かした支援 本人や家族の状況、その時々々の要望に応じて、事業所の多機能性を活かした柔軟な支援をしている	利用者や家族の要望に応じ、通院介助や個別外出などの付き添いや、また地域の方々の介護相談を受けるなど、その時々で柔軟な支援を行なっている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
4. 本人がより良く暮らし続けるための地域資源との協働					
18	43	○かかりつけ医の受診支援 本人及び家族等の希望を大切にし、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	ホームは複数の医療機関との連携が出来ており、24時間対応のほか、定期的な在総診と月2回の往診があり、看護師も常駐し、かかりつけ医との連携が的確に行なわれている。また、利用者や家族の希望に応じ以前からのかかりつけ医を利用している利用者もあり、適切な医療を受けられるよう支援している。		
19	47	○重度化や終末期に向けた方針の共有 重度化した場合や終末期のあり方について、できるだけ早い段階から本人や家族等ならびにかかりつけ医等と繰り返し話し合い、全員で方針を共有している	重度化や終末期については「急性期及び重度化と看取りに関する確認同意書」を作成しているが、利用者や家族の気持ちに配慮しながら、その時々により確認をして、十分な話し合いを持ちながら慎重に取り組んでいる。ホーム内には家族のための予備室も確保されている。		
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
1. その人らしい暮らしの支援					
(1)一人ひとりの尊重					
20	50	○プライバシーの確保の徹底 一人ひとりの誇りやプライバシーを損ねるような言葉かけや対応、記録等の個人情報の取り扱いをしていない	職員は利用者への言葉掛けには、十分な注意を払いながら、プライバシーを損ねるような言動を取らないように配慮している。また個人情報の取り扱いについても利用者や家族の同意書をいただいております、書類も適切な場所に保管されている。		
21	52	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的に一日の流れはあるが、利用者一人ひとりの声に耳を傾け、その日の体調や希望にあわせ、日々その人らしい暮らしができるように、出来る限り希望に沿うよう支援したり、見守ったりしている。		

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
(2) その人らしい暮らしを続けるための基本的な生活の支援					
22	54	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	職員も利用者と一緒に食事をし、さりげなく見守ったり声掛けをしている。食事は彩り、味付けが良く、利用者もおいしそうに殆ど残さずに食べている。利用者と職員の楽しそうな会話が聞こえてきて和やかな雰囲気の中で食事の時間を楽しんでいる。食事の準備や後片付けは出来る範囲でお手伝いをしている。		
23	57	○入浴を楽しむことができる支援 曜日や時間帯を職員の都合で決めてしまわずに、一人ひとりの希望やタイミングに合わせて、入浴を楽しめるように支援している	週3回の入浴日は決められているが利用者の希望や体調に合わせて、入浴支援を行なっている。1階の浴室には、特殊入浴の設備も整っている。		
(3) その人らしい暮らしを続けるための社会的な生活の支援					
24	59	○役割、楽しみごと、気晴らしの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、楽しみごと、気晴らしの支援をしている	家庭菜園や縫い物、掃除、調理のお手伝いなど、利用者の有する力や得意とする分野を活かしながら場面づくりを行なっている。その人の生きがいや喜びに繋がるかを把握し、自然な形で生活の中に取り入れ支援をしている。		
25	61	○日常的な外出支援 事業所の中だけで過ごさずに、一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援している	日々の散歩や買物、お祭り、花見、海岸へのドライブなど季節による五感刺激にも配慮した外出支援を行なっている。		
(4) 安心と安全を支える支援					
26	66	○鍵をかけないケアの実践 運営者及び全ての職員が、居室や日中玄関に鍵をかけることの弊害を理解しており、鍵をかけないケアに取り組んでいる	鍵は夜間のみ施錠をしている。事務所からも出入りが確認できるようになっているが、職員は見守りや工夫により鍵を掛けないケアを実践している。		

石狩市 グループホーム メープル

外部評価	自己評価	項目	取り組みの事実 (実施している内容・実施していない内容)	○印 (取り組みを期待したい項目)	取り組みを期待したい内容 (すでに取り組んでいることも含む)
27	71	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を身につけ、日ごろより地域の人々の協力を得られるよう働きかけている	避難訓練は地域住民の協力もいただき、消防署立会いの下、実施している。夜間想定 of 訓練も行ない、本州の事例を参考にした「防火自主点検項目表」を作成し、職員が毎日チェックを行なっている。		
(5) その人らしい暮らしを続けるための健康面の支援					
28	77	○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	利用者の水分摂取量や食事量はきちんと記録されている。毎日の食事は栄養士や医師の指導を受けバランスの良い食事が提供されている。		
2. その人らしい暮らしを支える生活環境づくり					
(1) 居心地のよい環境づくり					
29	81	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）は、利用者にとって不快な音や光がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	ホーム内は掃除が行き届いており、居間は、増築されて広々としており、不快な臭いもなく明るく穏やかな採光である。ソファやテーブルも配置され、思い思いの場所で寛ぐことが出来るようになっている。		
30	83	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内は利用者が使い慣れた家具や馴染みの物などが持ち込まれ、思い思いの飾り付けをしている。利用者の中には趣味の縫い物をしている方やお部屋で寛いでいる方など、それぞれ自由に過ごしており、利用者が安心して居心地よく過ごすことが出来る場所となっている。		

※ は、重点項目。